

新型コロナウイルス感染症拡大下における飲食店の実態と役割に関する研究

-渋谷区の5商店街を対象として-

Research on the actual situation and the role of eating place under the spread of COVID-19

- Focusing on five shopping streets in Shibuya Ward -

○近藤孝俊¹, 井本佐保里²

*Takatoshi Kondo¹, Saori Imoto²

Abstract: The purpose of this study is to understand the efforts for the survival of eating place and to consider new roles in five shopping districts adjacent to residential areas in Shibuya Ward, Tokyo, under the spread of COVID-19. Through observations of the five shopping districts and interviews with representatives, it became clear that there are differences in business conditions and take-up of take-out and delivery services depending on the types and locations of the eating places.

1. 研究の背景と目的

新型コロナウイルス感染症流行により、人々の生活様式に様々な変化が生じた。特に飲食店は、時短営業や酒類提供の自粛要請が出されるなど運営形態に大きな変更を強いられている。本研究では、新型コロナウイルス感染症拡大下において、飲食店が生き残るための取り組みについて把握し、地域の中での飲食店の新しい役割について考察することを目的とする。

2. 調査概要

新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年の東京都の飲食店閉店数が過去最多となった^[1]。その中でも渋谷区の閉店数が最も多く、前年度から8.4%増加していることが報告されている^[1]。渋谷区には59の商店街があり、特に都心部の駅周辺で閉店数が多いことが分かる(Fig.1)。一方で、都心部から離れた住宅地は閉店数が比較的少なくなっており、都心部と住宅地で閉店数に違いが生じている(Fig.1)。本研究では、閉店数が比較的少なく飲食店が生き残っている住宅地に立地する幡ヶ谷6号通り商店街、六号坂通り商店街、十号通り商店街、笹塚十号坂商店街、広尾商店街の5商店街を対象に、飲食店の種類や営業状況、テイクアウト等の取り組みについて、観察調査と商店街代表者へのインタビューを行なった。尚、本研究では店内に飲食用の座席がある店舗を飲食店と定義する。

3. 結果と考察

3-1. 調査対象商店街の特徴(Fig.1)

①幡ヶ谷6号通り・六号坂通り商店街: 幡ヶ谷駅から20m程離れた都営住宅の多い住宅地に立地する。2つの商店街には、飲食店が64店舗、惣菜類が8店舗、その他

が91店舗となっており、近隣住民向けの店舗が多いと推察される。

②十号通り商店街・笹塚十号坂商店街: 笹塚駅から80m程離れており、①と同様に、都営住宅の多い住宅地に立地する。2つの商店街には、飲食店が38店舗、惣菜類が10店舗、その他が77店舗となっており、①の商店街に比べて、飲食店が少なく、惣菜類や美容室等の生活関連の店舗が多い。

③広尾商店街: 広尾駅に隣接し、住宅地に立地する。商店街には、飲食店が69店舗、惣菜類が1店舗、その他が69店舗となっており、①や②に比べて、惣菜類が少なく、飲食店や物販等の店舗が多い。

3-2. コロナ下における飲食店の営業状況(Fig.2)

①飲食店の開閉店: レストランとカフェは約9割が営業している。一方で、酒類を提供している居酒屋は東京都の要請に従い、約7割が休業していた。特に休業が多いのは、家賃の支払いが不要な家族経営の店舗の場合が多いことを商店街の代表者より聞き取れた。

②店舗の営業形態: 新型コロナウイルス感染症による飲食店の閉店は見られず、他の理由によって閉店してもすぐに新規店舗が入っていたことが聞き取れた。

3-3. コロナ下における飲食店のテイクアウト・デリバリーの実施状況(Fig.3)

①テイクアウトの実施状況: テイクアウトを実施している店舗は、レストランで約4割、居酒屋で約2割、カフェで約6割が実施しており、レストランとカフェの実施が多い。

②デリバリーの実施状況: デリバリーを実施している店舗は、レストランとカフェで約2割、居酒屋で1店舗が実施していた。特に広尾商店街は、レストランの約4割が実施しており、他の商店街に比べて多い。

1: 日大理工・学部・建築 2: 日大理工・教員・建築

4. まとめ

飲食店の種類によって営業状況やテイクアウト、デリバリーの実施状況が異なっていることが明らかとなった。また、テイクアウト等への移行や、休業等によって、商店街から飲食する場所が減っていることが分かった。このような状況下で求められている新たな飲食店の役割を見出したい。

5. 参考文献

- [1] Foodist Media 食の世界をつなぐ Web マガジン
<https://www.inshokuten.com/foodist/>
 (2021.9.14 閲覧)
- [2] 東京編 飲食店の閉店情報まとめ
<https://japan-crc.com/ccn/news4/20201224-2u/>
 (2021.3.25 閲覧)

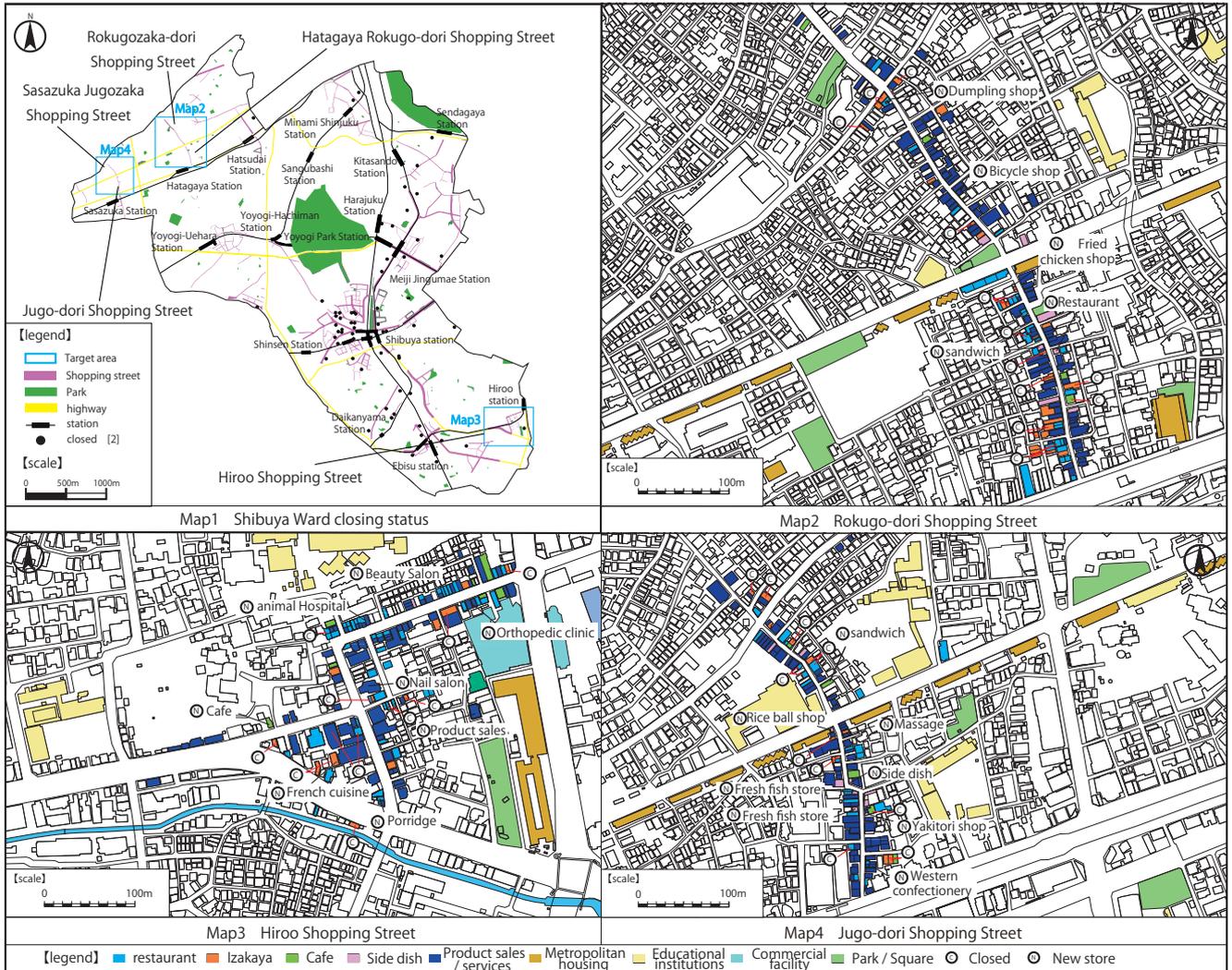


Fig.1 Maps of eating places in Shibuya Ward

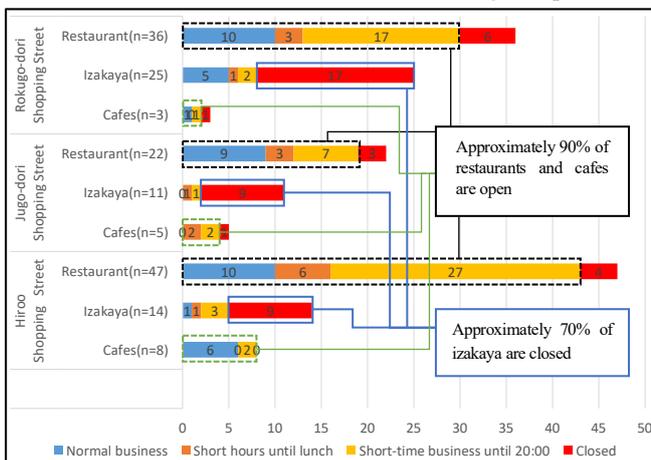


Fig.2 Operating and status of eating places

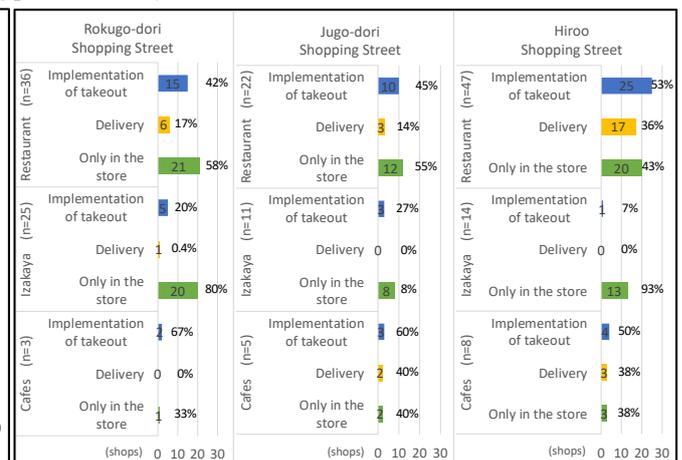


Fig.3 Implementation of take-out and delivery services of eating places